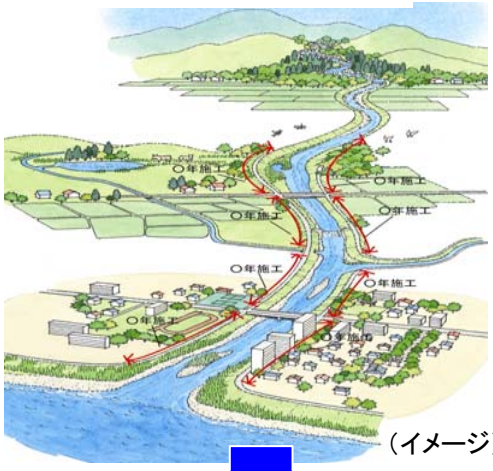
# 「多自然型川づくり」から「多自然川づくり」へ

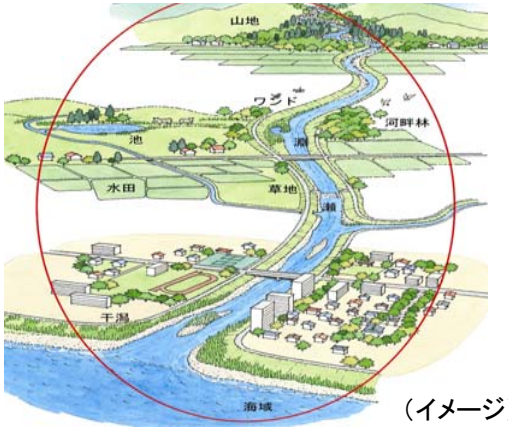
## 個別箇所の多自然から河川全体の自然の営みを視野に入れた多自然へ

個別箇所の多自然




（イメージ）

河川全体の自然の営みを視野に入れた多自然




（イメージ）

河川全体の自然環境を理解し、良好な環境をどのように保全し、悪化した環境をどのように再生していくのか等、全体として目指すべき一貫した目標のもと、川づくりを行うことが必要である。

## 河川管理全般を視野に入れた多自然川づくりへ

### 設計・施工

施工前

（イメージ）

施工後

（イメージ）

### 維持管理

（イメージ）

調査、計画、設計、施工、維持管理等の河川管理のすべての段階において、河川に関係するすべての人々が協働して多自然川づくりに取り組んでいくことが必要である。

# 課題の残る川づくりの解消

## *課題の残る川づくりの例*

護岸の植生に配慮して環境保全型ブロックを用いているが、標準断面による画一的な工事が行われ、河床部や水際部には工夫が見られない。

魚巣ブロックをとりつけたが、前面に州がついてしまって、魚巣ブロックの機能がなくなってしまった。

河川環境の評価が行われないままに地先ごとの工事を行っていることが多いため、河川の調査や工事、管理の目的や目標が明確になっていない。